



TITLE:

續獨逸經濟學界近況(一)

AUTHOR(S):

米田, 庄太郎

CITATION:

米田, 庄太郎. 續獨逸經濟學界近況(一). 經濟論叢 1918, 6(4): 575-578

ISSUE DATE:

1918-04-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127357>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號四第 卷六第

行發日一月四年七正大

論說

『座』ノ研究(再ビ).....

文學博士

三浦周行

農會瑣言.....

法學博士

財部靜治

京都ニ於ケル舊時ノ搥屋仲間.....

法學士

本庄榮治郎

營業稅ノ課稅標準(二)宛.....

法學博士

神戶正雄

Unto this Lastヲ讀ム(一)宛.....

法學博士

河上肇

職工組合論(二).....

法學士

河田嗣郎

我國^{ニ於ケル}營利心ノ起源及發達(三).....

文學士

銅直勇

時事問題

米國禁輸問題ノ解剖.....

法學博士

神戸正雄

勸業及農工銀行ノ合併ニ就テ.....

法學博士

戸田海市

雜錄

大阪市ニ於ケル窮民ノ家計(一).....

法學士

櫛田民藏

續獨逸經濟學界近況(二).....

文學士

米田庄太郎

物價卜割引歩合卜ノ平行.....

文學士

高田保馬

米國ノ戰時海運政策(三)宛.....

法學士

岸本熊太郎

米國ノ戰時租稅法(二).....

在米

阿部賢一

帝國統一後ノ獨逸ノ植民の活動(上).....

文學士

山本美越乃

續獨逸經濟學界近況 (一)

米田庄太郎

近着ノ伊太利ノ社會學雜誌 (Rivista Internazionale di scienze sociali e Discipline Ausiliarie, Dicembre 1917), 1 終

第六卷 (第四號 一二三) 五七五

テ、又獨逸經濟學雜誌近號中ノ數種ノ論文ガ、紹介サレテ居ルコトヲ見出シタカラ、茲ニ「鐵樹逸經濟學近況」ト題シテ、之ヲ譯シ、以テ同學ノ士ノ參考ニ供スルコトトスル。

まい氏ノ「獨逸國民ノ消費スル食物ノ營養價值」⁽¹⁾

本論文ハ獨逸ノ最トモ重要ナル經濟學雜誌ノ殆ンド百二十頁ヲ占ムル長論文ニシテ、まい氏ノ甚ダ精密ニシテ、有益ナル研究ヲ發表セルモノデアル。同氏ハ本論文ニ於テ、今日ノ獨逸國民、即チ敵國ニヨリテ周圍ヨリ全ク封鎖サレタル獨逸國民ガ、消費スル諸種ノ食物ノ營養價值ヲ測定セント試ミテ居ルノデアルガ、科學的材料ニ基ヅキテ行ハレタル此ノ研究ハ、千九百十二年頃ヨリ獨逸ニ於テ續々現ハレ始メ、而シテ目下ノ大戰爭ト其ノ恐ル可キ影響トガ、段々之ヲ増加セシメ、今ヤ甚ダ豐富ナル文献ヲ有シテ殆ンド特別ナル一學問ヲナスマデニ至レル諸研究ノ、重要ナル一部分ヲナスモノデアル。又此ノ學問ハ平和ノ曙光ガ不幸ナル血マミレノ歐羅巴ノ上ニ照リ初メタル後モ、確カニ放棄サレナ

イデアラウト思フ。是レ戰後總テノ國民ガ戰時中胸ニ受ケタ深キ創傷ヲ癒ヤス爲メニ、近世ノ學術ヲ應用シテ、大ニ節儉政策ヲ實行セントスルニ當テ、甚ダ貴重ナル教ヲ與ヘルモノデアルカラデアル。

獨逸國民ガ饑餓ト戰フニ於テ、大ニ科學ニ依賴シナケレバナラヌコトハ云フマデモナイ。而シテ英國ノ封鎖政策ガ彼等ヲ陷レントセル其ノ深淵ヨリ、彼等ヲ救ヒタルハ、實ニ科學ノ研究デアル。併シ之レト同時ニ科學モ、亦戰爭ヨリ研究ノ刺激ヲ與ヘラレタト云フ點ニ於テ、戰爭ニ負フ處多イト云ハネバナラヌ。實ニ科學ハ、人間ノ生命ト健康トヲ、維持スルニ必要缺ク可カラザル蛋白質ノ最小限量ヲ、研究スルコトニヨリテ、甚ダ貴重ナル實驗ヲ成就シタノデアル。而シテ其等ノ實驗ハ、箇人ニ必要缺ク可カラザル蛋白質ノ日々ノ分量ハ、生理學者ガ戰爭前ニ想像シ、要求シテ居ツタ其ノ分量ヨリモ少ナルモノナルコトヲ證明シタガ、此ノ事ハ今日破壊シ難キ鐵柵ヲ以テ國境ヲ圍マレタル獨逸國民ニ

1) R. C. May, Der Nachwerth des deutschen Volkskonsums. (Schmollers Jahrbuch. Zweites Heft. 1917.)

トリテ、甚ダ重大ナル意義ヲ有スル。是レ彼等ノ食料問題ノ中核ヲナスモノハ蛋白質問題デア
ルカラデアル。

本論文ハ吾人伊太利人ニトリテモ、亦重要ナル意義ヲ有スル。而シテ夫レハ只科學的理論的方面ニ於テ、云フバカリノ事デハナクシテ、實際的方面ニ於テモ亦同様デアル。今日總テノ國民ノ遭遇スル異常ナル事情ノ爲メニ、諸種ノ食物ノ消費ハ、大ニ節約サレネバナラス。何レノ國民モ食物ヲ浪費スルコトガ出來ナケレバ、又決シテ之ヲ浪費シテハナラナイ。何レノ交戰國民ニアリテモ、食物問題ハ日々重大ナルモノトナツテ居ルガ、更ニ多數ノ中立國民ニアリテモ同様デアル。食物ノ節約ハ實ニ今日デハ世界ノ一大問題トナリツツアルノデアル。

本論文ハ營養問題ニ就テハ、第一流ノ大家タルえるつばつひやー及ビばるろと二氏 (Eilender e Ballo) ノ作成セル多數ノ表ヲ擧ゲテ證據トシテ居ル。又多年間其ノ力ノ大部分ヲ此ノ問題ノ研究ニ獻ゲタルりゆふな一氏 (Rühner)

ノ達着セル結論ヲ引用シテ論旨ヲ確カメテ居ル。りゆふな一氏及ヒ其ノ他ノ衛生學者ハ、獨逸人ノ平均體重ヲ四十五きろぐらむト計算シ、而シテカカル體重ノ人間ニ對シテハ、日々蛋白質六十ぐらむカラ六十二ぐらむマデガ必要デアルト推測シテ居ル。即チ體重一きろぐらむニ對シテ、蛋白質一ぐらむ三七八カラ一ぐらむ五三三マデガ必要トナル割合デアル。しゆむべるく氏 (Schunberg) ハ稍々之レト異リテ、體重七十きろぐらむノ人間ニアリテ、日々蛋白質七十ぐらむ攝取スレバ、夫レデ十分デアルト主張シテ居ル。即チ體重一きろぐらむニ對シテ蛋白質一ぐらむノ割合ニ當ル。而シテりゆふな一氏ハ戰時中ノ獨逸人ノ營養ニ就テ、平均體重ハ上ニ述ベシ如ク四十五きろぐらむトシテ、各箇人ノ平均消費ハ、蛋白質八十九ぐらむ、脂肪質六十二ぐらむ、含水炭素四百六十ニシテ、其ノ熱力ハ總計二千九百三十二きやろりーニ當ルト計算シテ居ル。

まゐ氏ノ論文ハ上ニ述ベシ如ク、甚ダ有益ナ

[illegible]